

議案第 14 号

小松市の学校における食物アレルギー対応委員会委員の委嘱について

次のことについて議決を求める。

1. 小松市の学校における食物アレルギー対応について

「小松市の学校における食物アレルギー対応指針（令和 7 年 9 月改訂）」に基づき、小松市立学校において、食物アレルギーを有する児童生徒への対応を実施。

2. 小松市の学校における食物アレルギー対応委員会について

委員会は、小松市の学校における食物アレルギー対応について、望ましい方向を見出すため、指導・助言を行う。

3. 小松市の学校における食物アレルギー対応委員会委員について

委員は、小中学校長会が推薦した者、P T A 連合会が推薦した者、学識経験を有する者、その他関係機関の職員、教育委員会の職員の中から教育委員会が委嘱し、又は任命する。任期は 2 年とし、再任は妨げない。

〔委員〕

役職等	氏名	新規
南加賀保健福祉センター所長	沼田 直子	
小松市 P T A 連合会会長	坂本 啓太	
山上小児科クリニック医院長	山上 正彦	
小松市立苗代小学校校長	北野 勝久	○
小松市立南部中学校校長	亀田 憲一郎	○
北陸学院大学健康科学部教授	新澤 祥恵	
小松市消防本部警防課参事	塩田 正一郎	
小松市教育委員会事務局長	藤井 勝司	○

〔既委嘱委員〕

役職等	氏名
南加賀保健福祉センター所長	沼田 直子
小松市 P T A 連合会会長	坂本 啓太
山上小児科クリニック医院長	山上 正彦
小松市立第一小学校校長	山下 千華
小松市立丸内中学校校長	荒木 達人
北陸学院大学健康科学部長	新澤 祥恵
小松市消防本部警防課参事	塩田 正一郎
小松市教育委員会事務局長	長谷川 巖

令和7年度一般会計補正予算（3月31日専決）について

○歳入歳出予算の補正 総括表

歳入

（単位：千円）

科目名	補正前の額	補正額	計	備考
19款 寄附金	3,290	2,200	5,490	
1 項 寄附金	3,290	2,200	5,490	奨学金寄附金 2,000 学校教育充実寄附金 200

歳出

（単位：千円）

科目名	補正前の額	補正額	計	備考
10款 教育費	3,013,176	△ 75,000	2,938,176	
1 項 教育総務費	302,139	2,000	304,139	奨学金基金積立金 2,000
2 項 小学校費	1,275,060	△ 26,000	1,249,060	施設維持管理費 △ 20,000 一般経費 △ 6,000
3 項 中学校費	340,659	△ 29,000	311,659	施設維持管理費 △ 5,000 松陽中学校整備費 △ 24,000
6 項 保健体育費	1,095,318	△ 22,000	1,073,318	学校給食費 △ 22,000

○繰越明許費の補正

（追加）

（単位：千円）

款	項	事業名	金額
10. 教育費	3. 中学校費	松陽中学校整備費	24,500

令和8年度 小松市 研究指定校

(国) 教育課程柔軟化サキドリ研究校	R8～R9	松東みどり学園 ・「調整授業時数制度」を先取りするような形で教育課程を編成・実施し、研究開発を行う。その際、次のいずれに活用可能とする。 ①既存教科等に乗せ②教科の新設③「裁量的な時間」に充当
(国) 生成AIパイロット校 (C区分)	R8	指定校：芦城小学校、芦城中学校 協力校：丸内中学校 ・AIを含む情報活用能力の育成に向けた教材実証 ・各教科などにおける深い学び・情報活用能力育成の実践事例を創出（リーディングDXスクール事業の後継）
(県) 令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究	R6～R8	稚松小学校 ☆研究発表会11/11（水） 講師 早稲田大学准教授 大村 龍太郎 氏 …☆小・中・義務教育学校各1名以上悉皆
授業力向上推進事業（学びに向かう力の育成）	R7～R8	向本折小学校 ☆研究発表会11/20（金） 講師 静岡大学教育学部大学院教育学研究科講師 細川 太輔 氏 …☆小・義務教育学校（前期課程）各1名以上悉皆
授業力向上推進事業（学びに向かう力の育成）	R7～R8	芦城中学校 ☆研究発表会11/25（金） 講師 熊本大学大学院教育学研究科特任教授 前田 康裕 氏 …☆中・義務教育学校（後期課程）各1名以上悉皆
未来の学びづくり研究事業	R6～R8	松東みどり学園 ★【英語】公開校内研修会9/8（火） 関西外国語大学英語キャリア学部 教授 直山 木綿子 氏 ★【探究】公開校内研修会12/7（月） 講師 札幌市立北園小学校 校長 渋谷 一典 氏 ★【情報】公開校内研修会1/25（月） 講師 放送大学 准教授 小林 祐紀 氏

その他(県教委関係)

学校安全総合支援事業	R8	(災害安全) 南部中学校・第一小学校 (交通安全・生活安全) 丸内中学校区
------------	----	--

令和7年度 教育相談の概況について（その他の報告）

令和8年5月20日
教育委員会会議 資料
教育研究センター

1 教育相談の状況

① 取り扱い相談件数および相談のべ回数

	相談件数	相談のべ回数			
		来所相談	電話相談	訪問相談	合計
R7	451	1739	1846	853	4438
R6	407	1623	1660	990	4273

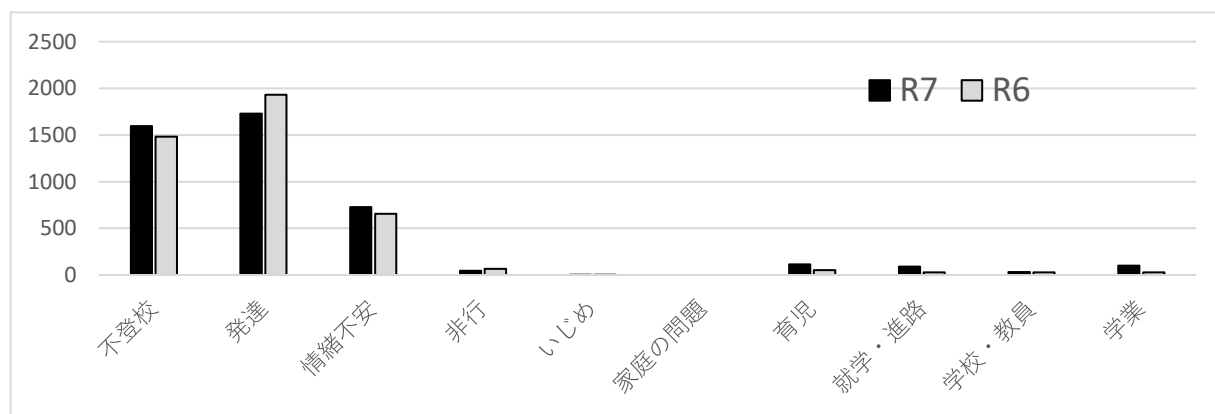
- ・相談件数は、相談を行った内容の数
同一の内容で、本人、母、教員に別々に相談を行っても1件とカウント。
- ・相談のべ回数は、実際に相談の対応をした実人数。
同一の内容で、本人1回、母2回、教員に2回相談を行った場合、5回とカウント。

② ①の相談のべ回数の内訳（相談者別）

	本人	保護者	教員	その他	合計
R7	540	2353	1364	181	4438
R6	552	2140	1477	104	4273

③ ②の相談のべ回数における相談主訴の内訳

	不登校	発達	情緒不安	非行	いじめ	家庭の問題	育児	就学・進路	学校・教員	学業	合計
R7	1596	1729	727	46	2	0	115	90	32	101	4438
R6	1482	1931	657	65	2	0	51	30	28	27	4273

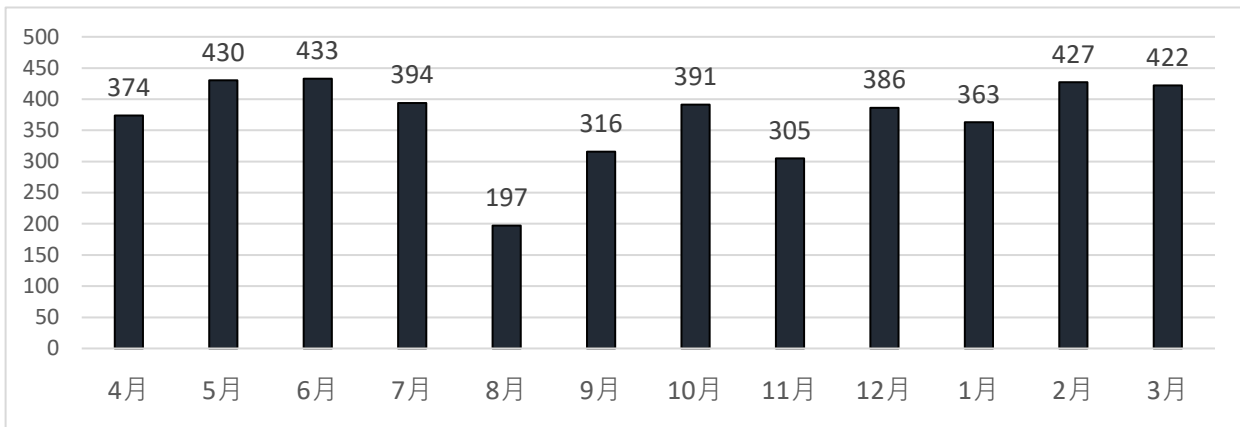


④ 小中別、主訴別の相談のべ回数の内訳

	R7	不登校	発達	情緒不安	非行	いじめ	就学・進路	その他	合計
小学生		722	1354	389	23	2	78	114	2682
中学生		847	367	329	23	0	12	133	1711
その他		27	8	9	0	0	0	1	45
計		1596	1729	727	46	2	90	248	4438

その他（家庭・育児・学校・学業）

⑤ 相談のべ回数の月別推移



R 7 は年度当初と年度末の相談数が前年より増加

2 ふれあい教室の状況

① 設置の目的

様々な要因で学校に登校できない児童生徒に通室を勧め、個々に応じた支援によって自立促進を図り、学びの場を保障することを目的に設置されている。

子供の社会的自立を最終目的とし、「居場所づくり」、「学習支援」、「繋がりづくり」を柱に学校・家庭と連絡を取りながら支援を行う。

② 月別の通室状況 (全通室数 R7：小12,中25 R6：小18,中32)

R7	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小	3	7	6	5	3	6	6	6	6	6	8	6
中	11	11	13	11	6	14	16	14	15	17	14	17
計	14	18	19	16	9	20	22	20	21	23	22	23

③ 1 日の流れと 1 週間のスケジュール

	月	火	水	木	金
8:40～10:00	ふれあいタイム※1				
10:00～10:30	掃 除 ・ 朝の会 (予定確認・連絡など)				
10:30～12:00 (午前の活動)	個別活動	調理実習 工作実習 等	個別活動	スポーツ グループ 活動等	個別活動
12:00～13:00	昼 食・休 憩				
13:00～15:30 (午後の活動)	ふれあいタイム 金曜日のみスポーツ活動を実施することがある				
15:30～16:30	フリータイム				

※1：学習や読書など個別での活動をしたり、通室生同士や職員とのゲームなど、グループでの活動をしたりする時間。どちらの活動を選択してもよい。



個別活動



ふれあい活動



スポーツ・グループ活動



実習・工作

④ 保護者等との連携

<保護者との面談>

子供の変化や新たな成長の確認を行い、安心感を与え適切な支援体制を整える機会としている。

<教育相談親の会>

講演会や懇談会を内容とした親の会を年間2回実施。専門家の話を聞くことや、保護者同士が悩み等を聞き合ったり共に考えたりすることで解決の糸口をつかむ機会となっている。

○第1回 7月25日(金)

講師 いなみえん主任心理士 浅田 伸史氏

「不登校の子供と関わる私たちのできることって何だろう」

○第2回 12月5日(金)

講師 福井県教育総合研究所SC 薮下 遊 氏「不登校支援の基本と回復の指標」

3 訪問相談の状況

① 目的及び方法

目的 不登校の状態にある児童生徒が義務教育終了後にひきこもりの状態となることを防ぐために、外部機関が関わるができるようにする。

方法 ①学校から家庭に案内をした上で、訪問相談員が家庭訪問を行う。
②不登校等継続実態調査をもとに、外部との関わりの少ない不登校の児童生徒を把握し、学校に連絡を入れる。学校が家庭に紹介した上で家庭訪問を行う。

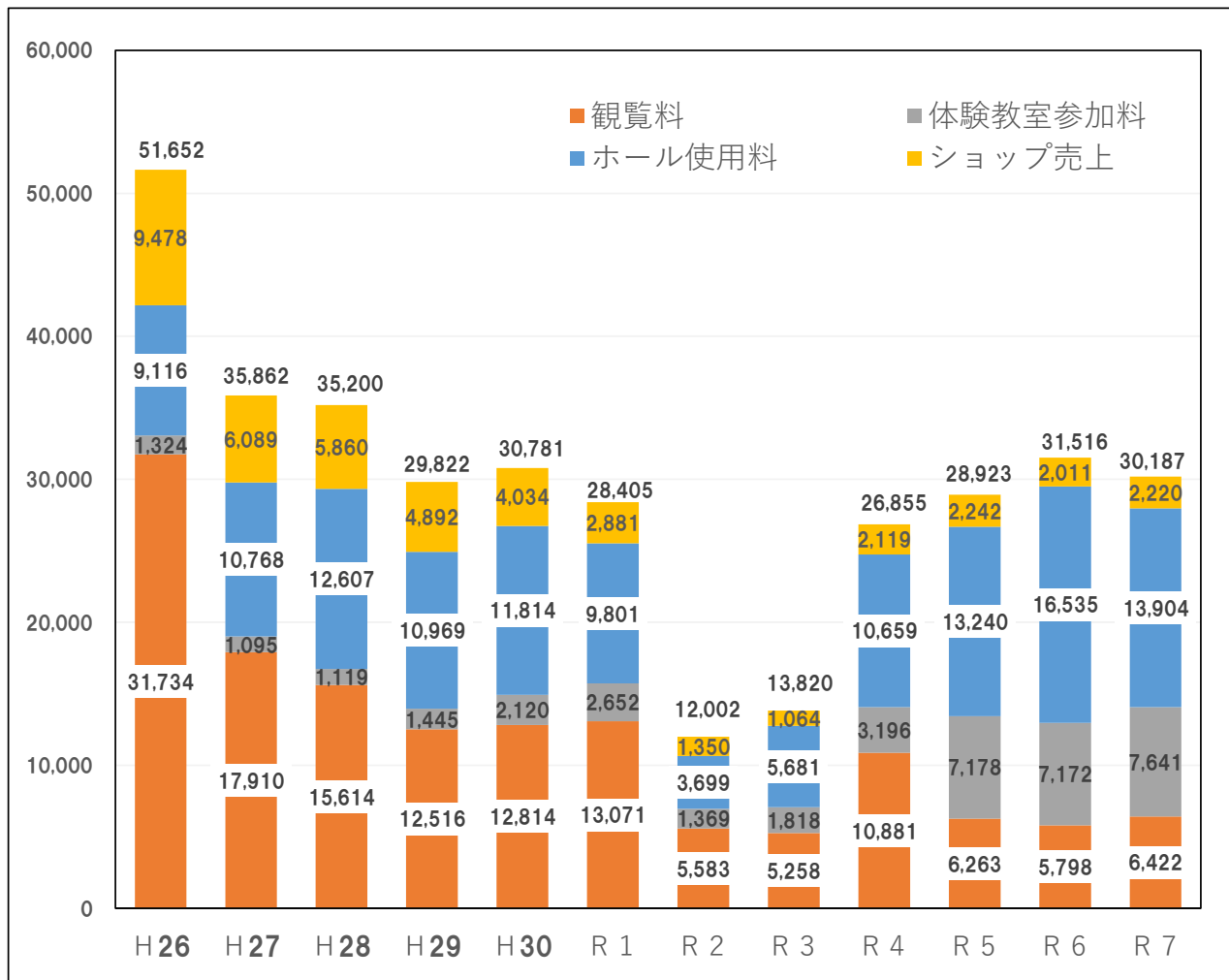
②月別対応人数

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中2生	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	1
中3生	1	2	3	3	2	2	2	3	4	2	2	1

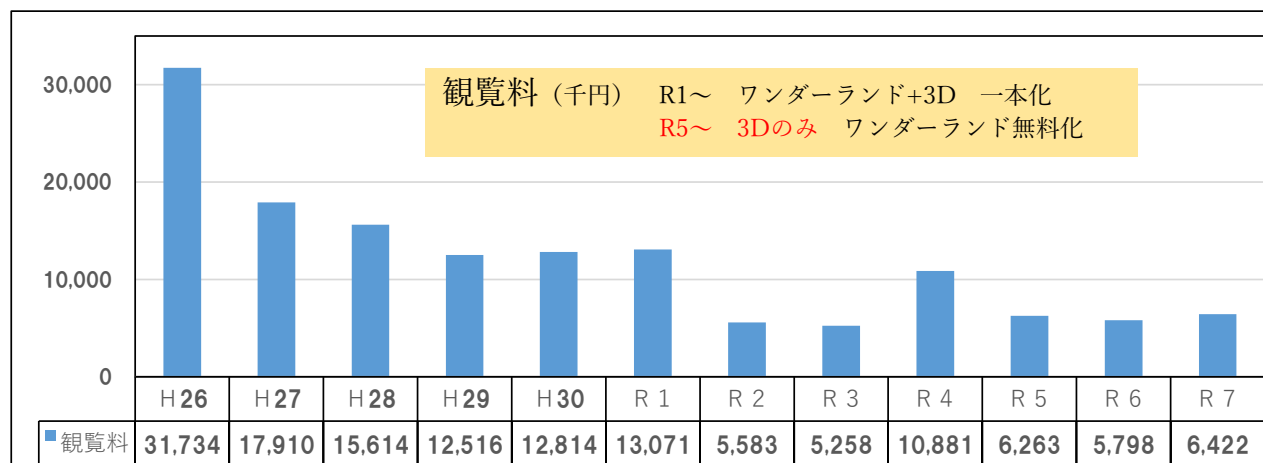
【令和7年度 ひととものづくり科学館運営実績】

	来館者数 (人)	有料来 館者数 (人)	団体/視察の利用 (市内、県内、県外利用者の割合)						
			合計 (人)	市内 利用者 (人)	割合 (%)	県内 利用者 (人)	割合 (%)	県外 利用者 (人)	割合 (%)
H26	173,072	85,168	16,949	4,921	29	8,973	53	3,055	18
H27	127,908	52,456	10,020	2,594	26	5,314	53	2,112	21
H28	144,618	54,024	12,761	5,598	44	5,182	41	1,981	16
H29	124,731	46,558	12,197	5,043	41	5,273	43	1,881	15
H30	142,266	53,132	12,852	6,094	47	4,956	39	1,802	14
R1	118,688	48,396	11,913	5,868	49	4,602	39	1,443	12
R2	49,745	22,424	4,983	3,201	64	1,779	36	3	0
R3	53,832	22,457	5,318	3,009	57	2,173	41	136	3
R4	107,845	40,337	7,422	3,079	41	3,844	52	499	7
R5	108,598	39,188	9,064	3,471	38	4,591	51	1,002	11
R6	109,228	37,027	10,093	3,541	35	5,317	53	1,235	12
R7	92,544	40,712	9,150	3,356	37	5,219	57	575	6

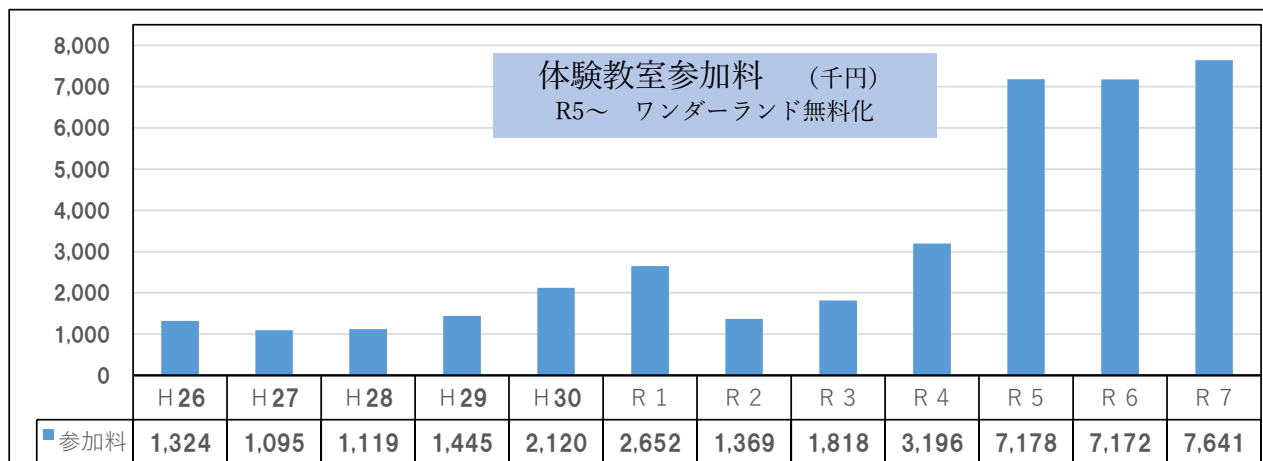
ワンダーランド
無料化



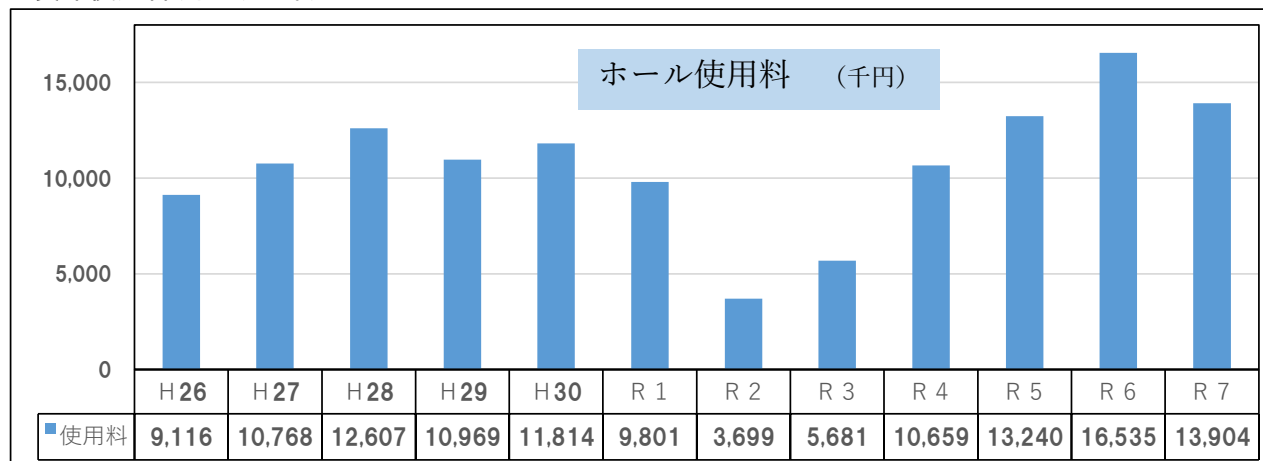
■観覧料(千円)口年別



■体験教室参加料(千円)口年別



■貸館使用料(千円)口年別



■ショップ売上(千円)口年別

